

優秀賞 「纏う木陰—都市に根を張るコンビニの再編による木陰空間の提案—」



01 背景：都市部における駅前空間の読み解き

1-1 駅前コンビニの存在



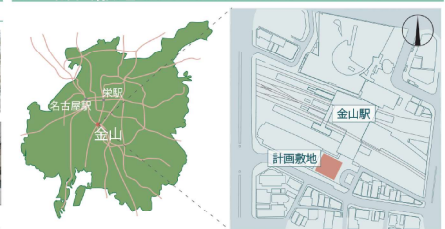
駅前には必ずコンビニがあり、多くの人が利用している。24時間営業で人工的な光が人々の生活に根付いてしまっている。そこで、コンビニに変わる新たな都市の自然的なたまり場を再構築する。

1-2 まちの木陰空間の減少



名古屋市内の街路樹は平成13年を境目に減少している。そのため、駅前には人々が休息する場が減少し、日の光や車の騒音などが滞留し街路空間が移動するための場と化している。

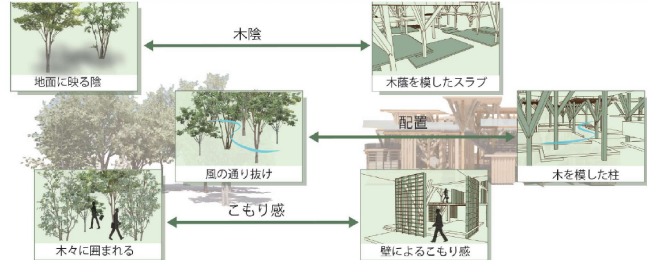
02 計画敷地：愛知県名古屋市中区 金山駅



本提案では、名古屋市中村区金山駅を対象敷地とする。近年再開発が進み、さらに自然環境が減少し人々の安らぎが失われている。

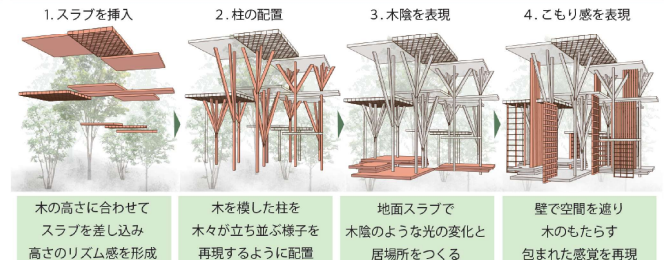
03 コンセプト：募集中

3-1 木陰の効果の抽出



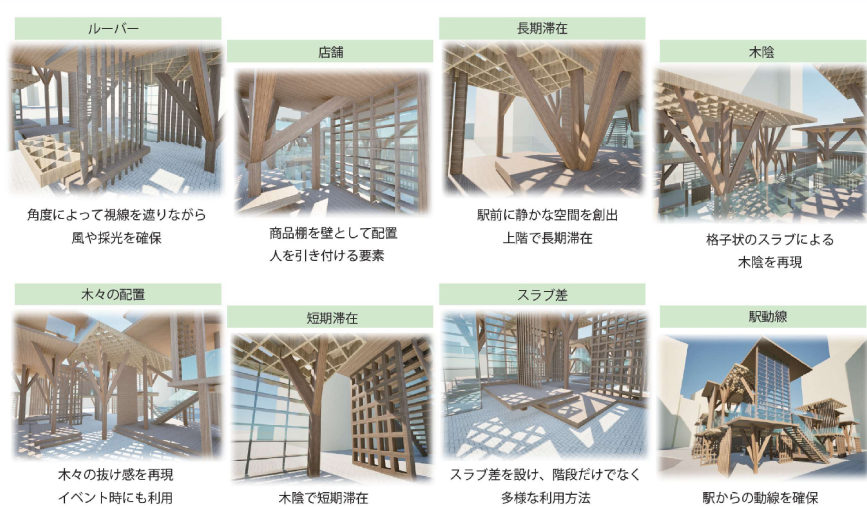
人々が自然と木陰に吸い込まれていく。木陰がもたらす包容感や穏やかな境界性を抽出し、空間の形態に落とし込み、心地よさが人を引き寄せるような空間を提案する。都市に木陰を纏わせることにより今までにあるような人々の居場所が形成され、本来都市にあった自然環境を取り戻す。

3-2 木陰空間の形態モデル化



敷地周辺の環境より木の高さを抽出しそれに沿うようにスラブを挿入する。また柱や壁などは枝や木の葉の空間構成をモチーフにし構造体に落とし込む。木漏れ日がスラブへと届き、木の下で集うような空間になり木の温かみを材質や空間から感じ取る。都市が木陰を纏い、駅前空間に安らぎが生まれる。

04 提案：空間の構成要素



05 構造

